

# なぜか幸せな心臓手術 ②

高橋 一郎

映画監督でありCOMLのボランティアメンバーでもある高橋一郎さん。

昨年心臓の大動脈弁置換術を受けられたのですが、  
そのご経験について「**すごく幸せで、病気になってよかった**」とおっしゃっていました。  
その体験を先月号より連載で綴っていただいています。



## ● どうやって食べるの？

検査入院二日目、朝から心臓カテーテル検査を受けた私は右下半身を固定したまま病室へ帰ってきた。これから5時間ほど右下半身を動かすことなく過ごさねばならないのです。昼食の時間になって少しでも食べやすいようにと、看護師さんがベッドの上半身を少し上げてくれた。食事は寝たままでも食べられるようにとおにぎりが出ている。それはいいとしても横には平皿にシチューとサラダが並んでいる(どうやって食べたらいいのやる?)。少し上体が起きているとはいえ、スプーンですくったシチューをこぼさずに口に入れるのはとても難しそうだ(食べさせてもらうにしてもです)。ストローで水を飲んでみた。慣れないことで要領悪く、直接喉の奥に水が飛び込んできて咳き込んでしまった(やっぱりシチューは無理やな)。おにぎりを一個食べてみた。せっかくの気遣いおにぎりだが、大きくてどうも食べにくい(困ったなあ)。仕方ないのでカミさんに頼んで売店でサンドイッチを買ってきてもらった(これが大当たりの優れものだった)。食パンを1/4にカットした大きさと、片手でちょうど持ちやすい。中身はハムと卵だったけど寝たままでもこぼすことなくきれいに食べることができたのでした(ヨロシイナ、コレ!)

## ● テープをはがす

カテーテル検査が済んで4時間ほどたったころ、寝返りしてもいいということで、右脚を下にする姿勢にしてもらった。仰向けでじっと寝ていると背中と腰がしんどかったがこれで楽になった。5時間を過ぎたころB医師が来た。右下半身を固定していた粘着テープをはがすらしい。私の顔を見て「痛いですよ」と言うなりビリッとテープをはがした(ホンマに痛い! モウ)。もう一度「痛いですよ」と言うなり、ビリッ! 毛と一緒にむしり取っていく(かなんなあ、脱毛してるんじゃないんだから)。荒業にびっくりしている間に作業は終了。それから2時間歩

いてはいけませんが、ベッド上では起きても可となった。右脚内側が付け根から膝のあたりまで、内出血で真っ青というより、赤黒い領域が広がっている。領域がどこまで広がっているかマジックでマーキングされている(動脈からの出血はさすがにスゴイもんだ)。

夕刻になって歩く許可が出てトイレへ行った。蓄尿のためコップへオシッコするが溢れてしまった(利尿剤が効いてるなあ)。傷口の周辺が少し腫れ気味らしかったが、トイレの帰りにソロソロ歩いていて右脚の付け根のふくらみに気がついた。c看護師を呼んで傷口を見せると、B医師が来てくれた。10分ほど傷口をジーツと押さえていた(やっぱり医師は体力ありますナ)。エコーで傷口の周辺を診る。出血ではなく何かのむくみらしかった。そこで再び術後と同じしっかりのテーピングをし、ベッド上以外は移動禁止となってしまった。トイレはまた尿瓶となる(トホホ)。

仕方なく天井をながめて時間を過ごした。右向かいのベッドの男の子、高校生のようだが調子が悪そうで気の毒だった。検査の副作用らしく、頭痛と吐き気を度々訴えている。右隣のおじいちゃんは、今日カテーテル、明後日経食道エコー、薬は飲んでるけど相変わらず血圧が高いらしい。来年の一月にも手術したほうがいいと担当の医師が話している。

夜はベッドで食事をした。食事が済んですぐあとに「歯磨きもしますか?」とc看護師に聞かれたのでやってみた。口を漱いだ水は小バケツに入れる。すっかり病人気分だ。

消灯後、オシッコしようと思って尿瓶を取りあげたとなん、パツとしずくがシーツに飛び散った。どうやら尿瓶に前のオシッコが残っていたらしい(アチャー!)。このまま寝るわけにもいかんなあ……c看護師を呼んで状況を説明した。c看護師は明るい顔で「わかりました! ちよっと待っててください」ともうひとり看護師を呼んできた。「そのまま寝ていてくださいね」と作業が始まる。寝たままシーツを取り換える経験。テレビの「介護の時間」で見たことがある。うまい方法があるものだ。とても手

際がよい(拍手!)。おかげさまで新しいシートで気持ちよく眠ることができた。

翌朝7時、B医師がテーピングをはがしに来た。(こんなに朝早くから出勤ですか、ひょっとしてお泊まりだったのかも、大変ですね)。私の顔を見て「痛いですよ」、アツと思う間にビリッと一枚はがされてしまった(断れば痛くてもよいというわけではないでしょう!)。昨日と同じ部分を(二回目)をはがしているのでとても痛い。間髪入れずまた「痛いですよ」ときたので堪らず……(ちょっとタンマ!)。あとは自分で取らせてもらうよう頼んだ。どうすればよいかわからないが、試しに手元にあった濡れティッシュでソロソロとテープを拭くように取ってみた。何と!簡単にスルスルと痛みもなく取れるではありませんか!あの乱暴なテープのはがし方(「痛いですよ」、ビリッ!)は何だったんでしょう……。右脚付け根は赤黒くなっているがむくみはたいぶ引いていた。痛みはない。一時間後歩いてよいという許可が出たので、歩いて洗面所へ行った。一日ベッドで過ごす腰にくる。歩いても腰がすっと伸びない。くの字型の姿勢のまま小股でチョコチョコ歩いていく。洗面所でゆっくり洗顔をし、歯も磨いた。少しさっぱりとした。

## ● 蛇を呑み込む

経食道心臓エコー検査の日。朝は絶食。午前中に検査があるかも知れないというb看護師の話だったので、そのつもりでデイルームで待っていたが心配がない。お腹がすいてきた。お昼になってしまった。いつになるのだろう。もうすぐなのか、まだまだなのか……。情報がほしいものだ。いろいろ忙しいことや、大変な仕事をしているということも理解しているつもりなので遅くなくても文句は言わない。でも情報がないのはツライ(絶食で水も飲まずに待っているんですからね)。

部屋でボンヤリしていると「移動図書館です」という声が聞こえた。廊下へ出てみると2台の移動車を引いた3名の年配男女がいる。ボランティアだろうね(ゴクロウサマデス)。文庫本を一冊借りた。ベッドでパラパラめくりながら拾い読みしていると、栄養士さん(男性)がやって来た。家での食事内容を聞かれる。「来年2月に手術の予定ですね」と確認する。「はいはい」と答えているうちに行ってしまった(ああ、まだなんだろうか、3時過ぎてますけど)。いや、それにしても無事に検査を受けられるのだろうか。胃カメラ検査は苦手だった。やだなあ…(いまさら言っても遅いけど)、とか考えてると「高橋さん、検査です」と連絡がきた。時計を見たら午後4時を指していた(8時間待ったんですけど)。

経食道心臓エコー検査は心臓カテーテルをした同じ

アンギオ室だった。喉の麻酔をしてから横向きに寝転ぶ。胃カメラ検査と同じ要領だった。A医師の指示でB医師が操作する体制だ。口にマウスピースを入れた。さあ、何でもこいや(と開き直る、仕方なく)。でも突き出されたカメラの先は胃カメラどころじゃない、やっぱり太いわ(とんでもなく!)……。「ハイ、苦しいけど飲み込んでくださいね」とB医師が太い蛇のような管を口に差し入れてきた。オオ……(これ飲むの?)と思ったけど(時すでに遅し)、蛇頭のカメラが喉を押し広げて入り込んでいく。オエツと一度なったがあとはグツとガマン、ひたすら目を閉じて(はよ終わってくれと)念じるのみ。するとカメラはからだのなかへ入って落ち着いたようである。しかも(偶然にやったことだけど)マウスピースの噛み方を変えると息を吐くのが楽になる角度があることに気がついた。鼻で息を吸い、口で吐けると楽になった。(オ、このまま済むのならラッキー!)と思ってたら「ハイ、大きく息を吸って」とA医師の声が聞こえて(聞いてませんが、そんなことするなんて)、何とか息を吸い込むと「ハイ、そこで息を止めて」(……ウウウ、そういうことだったのか)。それが終わるとさらにカメラは奥へ入ってくる(オエツとえづく)。息を吸って、止めて、吐いて、カメラはまた奥へ入り……。終わって時計を見れば午後5時である。1時間もカメラを呑み込んでいたのです(たしか30分という話でしたけど……。ま、いいか)。検査が終わってさすがにしばらくボンヤリしていた。ジュースをチビチビ飲みながら長かった一日を思い返す。朝から何も食わず、水も飲めず……。午後6時、カンファレンス室でA医師、B医師から検査結果の説明を聞いた(カミさん同席)。病名は大動脈弁閉鎖不全症。どうも大動脈弁が折れているらしい。左心室が通常の1.5倍くらいに膨張して負担がかかっている。造影剤でも左心室の拡大を確認。

話を聞いたあとデイルームで夕食を食べた。カミさんにプラスαのお惣菜を買ってきてもらい食べた。何せ朝から何も食べてない。これで検査入院は終わり。明日の朝退院して、すぐに正月が来て、また入院して、手術か、などと思いを巡らせておりました。

(つづく)

